

「身の丈メリハリ宣言」 お金がないのはどこも同じ。どんな遣り繰りをするか、が問題なのです

身

身の丈メリハリ宣言。これは、行政革命戦略に掲げた5つの宣言のうちの一つです(詳しくは、政策経営室ホームページ <http://www.city.miura.kanagawa.jp/info/seisaku/pm-index.html> でお読みください)。

メ

メリハリをつけるというのは、どういうことでしょうか。簡単に言えば、市の財源を使って重点的にやるべきことをはっきりとさせる、ということです。これまでも、市が予算をつけて行っている事業は、すべて何らかの必要性はあるものです。基本的に、不必要なものなどありません。しかし、**限りある市の財源を使ってやるべきであるかどうか**、という見方をすれば、「？」がつくものがないとは言い切れません。また、今、**緊急にやるべきことかどうか**、他の事業と比べて**優先的にやるべきことかどうか**、という見方をすれば、やはり「？」がつくものが、きっとあります。そういう見方をして、重点的にやるべきものをはっきりとさせる。メリハリをつける、というのはそういうことです。



市の財政は長年の「アレも、コレも」の発想でどんどん膨らんでしまいました。将来への備えや戦略的な投資のことも踏まえて、「アレか、コレか」とメリハリのある事業選択することによって財政規模を縮小し、身の丈に合わせます。(「身の丈メリハリ宣言」より)

ポ

ポイントは、大きく2つあります。ひとつは、**今の市の財政規模は身の丈を越えた状態になっている、ということをはっきりと認めた点**です。何故そうってしまったのか。その原因には「アレも、コレも」の発想があったのだ、と私たちは反省しています。簡単に言えば、「やりすぎの状態」だ、ということです。しかし、市民の皆さんは「やりすぎ」と感じているのでしょうか？おそらくNO(ノー)です。「やりすぎ」どころか、「不十分」と感じているでしょう。そういう印象を持たれる理由は、重点的にやるべきことをはっきりさせず、中途半端に広く浅く予算を組んできたからではないか、と考えています。仮に同じだけの財政規模であったとしても、広く浅くやっていたのでは、市民の皆さんの納得や満足を得ることはできません。優先順位をつけて、メリハリを出すということが必ず必要です。同時に、膨らみすぎてしまった財政規模に、市の体力が耐えられなくなっているのですから、メリハリをつける作業を重ねるなかで、事業の取舍選択をしていかなければなりません。2つめのポイントはそこにあります。**財政規模を縮小する方向で見直していく、という考えをはっきりと打ち出した点**です。お金がなくなってきたから仕方なく減らす、という後ろ向きな考えではなく、市の体力、すなわち「身の丈」に合わせるために、縮小方向に進路をとることにしたわけです。

